

# 家族でおちばへひのきしんを共に

## 夏休み子どもひのきしん閉幕

9/1~11/30  
**秋のひのきしん  
おちばがえり始まる**

例年の子どもおちばがえりに代わって実施された「夏休み子どもひのきしん」は8月28日、閉幕した。  
9月からは、大教会で「秋のひのきしんおちばがえり」が始まる。引き続き、家族でおちばに帰り、ひのきしんに汗を流す機会としたい。

「夏休み子どもひのきしん」は、感染症の拡大に伴い、例年の子どもおちばがえりに代わる行事として、7月26日から8月28日までの間、子供たちがおちばや教会などへ行く機会としたい。



発行  
**天理教本愛大教会**  
〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

### 年間活動目録

創立110周年に向かって  
**今日を陽気に。**  
おつとめ おたすけ ひのきしん

**YouTube**  
本愛大教会  
公式チャンネル  
で限定公開中

8月神殿講話  
**渡辺道治氏**  
元天理小学校教諭  
龍陽分教会ようばく



※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですので、チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

■秋も引き続きおちばへ  
既報の通り、9月1日からは本愛大教会の取り組みとして「秋のひのきしんおちばがえり」が始まる。

子供たちだけが帰る機会が減ってしまった身近な人に声をかけ、教会・家族単位でおちばへ帰る機会としたい。ひのきしんの内容等については、問い合わせ窓口が設けられている(詳しくは大教会ホームページを参照)。

供たちが参加した(写真下)。また、本愛団では8月21日、「鼓笛お供え演奏」に本愛鼓笛バンド23人が帰参。本部南礼拝場前でテーマソングを演奏し、練習の成果を親神様・教祖に披露した。本愛詰所では、帰参した子供たちを対象にかき氷が振る舞われた。

子供たちだけでなく、おちばへ帰る機会が減ってしまった身近な人に声をかけ、教会・家族単位でおちばへ帰る機会としたい。ひのきしんの内容等については、問い合わせ窓口が設けられている(詳しくは大教会ホームページを参照)。



本愛からも大勢の子供たちが帰参し、おちばの夏を楽しんだ

### 9月のこよみ

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| 秋のひのきしん<br>おちばがえり | 1日~11月30日 |
| 入社祭・秋季霊祭          | 1日 午前10時  |
| よふき会例会            | 2日 午前10時  |
| 月次祭               | 13日 午前10時 |
| 青年会例会             | 13日 午前10時 |
| 布教実修所             | 14日 午前10時 |
| むつみ会例会            | 16日 午前10時 |
| 子ども食堂MOGU         | 17日 午後5時  |
| ほんあいOKEIKO        | 18日 午前10時 |
| 婦人会例会             | 20日 午前10時 |
| 修養科志願者面接          | 25日 午後1時  |
| 女子青年例会            | 25日 午前10時 |
| 本部月次祭             | 26日 午前9時  |
| こはる会例会            | 27日 午前10時 |

# 現代に生かす



## 「用木の道」

文・安藤吉人



「松村（吉太郎）がよい」とおっしゃったそうです。

松村吉太郎先生は達筆な方でしたが、それ以上に初代真柱様にしがたつて難儀

世界中すべての教会の神殿には、みかぐらうた第四節「よろづよ八首」が掲げられています。これはなぜでしょうか。

ご承知のとおり、教会本部の北礼拝場には「よろづよ八首」が掲げられています。ここには元々「信徒参拝心得」なるものが掲げられていました。戦後、これに代わるものとして、二代真柱様は「火水風」の揮毫を掲げようと考えていたそうです。それを本部長であった高橋道男先生に相談されたところ、高橋先生は「よろづよ八首がいいのでは」と申し上げ、「それはええ思案やなア」と納得された二代真柱様は、筆を執るのは

の道をお通りになり、一派独立に生涯を捧げ、今日のお道を築き上げられた方でもあります。

高橋先生は後年、この二代真柱様とのやり取りを述べられ、「松村がよいとのお言葉の中に深甚の意味を私は感じる」と、松村先生の苦労を思われた二代真柱様の温かい親心を推し量つておられます（『みちのとも』）



昭和43年2月号）。

教会に何気なく掲げられている「よろづよ八首」ではありますが、それが掲げられるようになった背景に、こうした先人のご苦労やそれを思われた二代真柱様の親心があつたことも、覚えておきたいと感じます。

### 手を間違えた人に教祖は

八首にわたるお歌の意味について、諸井慶一郎先生は「この八首の内容を伺うと、十柱の神の理を濃厚に添へられていることは確かである」と著書の中で述べています。第一句はくにとこたちのみこと様、第二句はをまたりのみこと様と、「なむ天理王命」と「よしよし」を含めて各句に十全の守護の理を見出しておられました。

一方でお手について、教祖のこのような逸話が残っています。

教祖がある時、若い娘さ

んのお手振りの稽古をご覧になっていた時、その娘さんが「き、たくば」の手のところ、右指を右の耳に当てるべきなのに左の耳にあてたことがあつたそうです。

すると教祖は「それは間違いである」というお言葉ではなく、「〇〇さん、耳というものは遠いところから聞くものやないで。近いところから聞くもので」と教えられたそうです（西山輝夫『原典の世界』より西山勝造氏の話）

西山氏はこのお話から、「近いところ」とは神様の言われることであり、「遠いところ」とは人間の言うことと、常識とも言える。聞く順序を間違えてはいけないということ——と悟っておられます。

お歌だけではなく、お手振りからも、あるいはお道の歴史からも、教祖の思召を探る努力を忘れないようにしたいものです。

## 連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！  
『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、  
より理解が深まります！



チャンネル登録

教理随想

言わん言えんの理を探る



教祖は世界一  
れつの人間をた  
すけて、この世  
を陽気ぐらしに  
立て替えるため  
の手だてとして、  
おつとめを教え  
てくださいまし  
た。おつとめの  
地歌であるみか  
ぐらうたの言葉、  
メロディー、そ

とめる時には、「世界一  
つたすけたい」という教祖  
のお心を深く思いながらつ  
とめる心が肝心で、その誠  
真実が教祖のお心に適う時、  
身上事情の上に、不思議な  
ご守護を見せていただくこ  
とができるのであります。  
明治二十年正月に教祖が  
現身を隠された後、お道は  
爆発的な勢いで全国へ広が  
っていききました。それは教  
祖にたすけられた人たちが、  
競い合うようにして各地で  
布教を展開したからに違い  
ありませんが、おたすけに  
出向く先々で奇跡が現れた  
のは、このおつとめと十二  
下りのてをどりを、おたす  
けに当たる人が全身全霊を  
かけて真剣につとめたから  
に他なりません。

おたすけの上に不思議が  
現れるおつとめの効能は、  
当時も今もまったく変わつ  
ていません。けれども、も  
し今、十分にご守護を見せ  
ていただけない姿があると  
すれば、それはご守護が少  
なくなつたのではなく、お  
つとめをつとめる私たちの  
心とつとめ方に原因がある  
のではないのでしょうか。  
おふでさきに、  
どのよふなたすけするの  
もみなつとめ 月日ゆう  
よにたしかするなら  
(七―83)

から、「月日ゆうよに」、す  
なわち、教祖がお教えくだ  
さる通りの陽気な心でつと  
める姿勢が大切です。  
■三つの要点  
おつとめをつとめる際に  
肝心な点は、①：まず鳴物  
の打ち方や奏で方、そして  
手の振り方をまちがいがなく  
つとめることです。  
次に大切なのは、②：人  
に合わせてつとめること。  
すなわち九つの鳴物の音色  
がピツタリと一つに重なる  
ように、また手振りも六人  
の手のきれいに揃うように、  
お互いが合わせる気持ちをも  
つて、与えられた役目を  
つとめる態度が重要です。  
さらにその上で忘れてな  
らないのが、③：人をたす  
ける心です。自分の周囲で  
悩んでいる人、困っている  
人、苦しんでいる人の顔と  
名前を思い起こし、その身  
上平癒と事情解決を願う。  
さらには世界中から争いが

無くなり、世の中の平和を  
祈ってつとめる心が天の理  
に通じる誠真実であり、こ  
の点を心がけてつとめるこ  
とが、私たちようぼくの使  
命であります。  
来年一月から、教祖百四  
十年祭へ向かう三年千日が  
始まります。年祭の元一日  
は、教祖がおつとめを急ぎ  
込まれて、現身をお隠しに  
なつた明治二十年陰暦正月  
二十六日に由来します。今  
お道につながるようぼくは  
もちろん、その家族や友  
人・知人など一人でも多く  
の人が、陽気ぐらしの到来  
を祈っておつとめをつとめ  
られるように成人すること  
が、教祖のご期待でありま  
す。布教とようぼくの丹精  
に一層の力をこめることを  
心に定めて、今の旬を歩ん  
でいきましょう。

【第 93 回】

一れつたすけの親心を悟り  
教祖の心に適うおつとめを

ですから私たちは、おぢ  
ばでかぐらつとめを参拝し  
たり、教会でおつとめをつ  
とめる時には、「世界一  
つたすけたい」という教祖  
のお心を深く思いながらつ  
とめる心が肝心で、その誠  
真実が教祖のお心に適う時、  
身上事情の上に、不思議な  
ご守護を見せていただくこ  
とができるのであります。  
明治二十年正月に教祖が  
現身を隠された後、お道は  
爆発的な勢いで全国へ広が  
っていききました。それは教  
祖にたすけられた人たちが、  
競い合うようにして各地で  
布教を展開したからに違い  
ありませんが、おたすけに  
出向く先々で奇跡が現れた  
のは、このおつとめと十二  
下りのてをどりを、おたす  
けに当たる人が全身全霊を  
かけて真剣につとめたから  
に他なりません。

だすけの熱意があるか。こ  
うした点をいつも反省しな  
う。さらには世界中から争いが  
さらには世界中から争いが

学生生徒修養会・高校の部

本愛からは11人が参加

8月8日から12日にかけて、「学生生徒修養会・高校の部」が親里で開催され、本愛からは男子4人、女子7人が受講した。

期間中、参加者は全国各地から帰参した多くの仲間と心の絆を深めた。

修養科一期講師

津田豊郎氏(本宏)が、修養科第970期の一期講師を務めた。

7月のおさづけの理拝戴者

本 築(本清愛) 山下 未展  
以上1名

7月の初席者

本 築(本清愛) 竹内 健太  
本則武 西野 陽介  
以上2名

本徳分教会六代会長

相原貞子之霊の一年祭

本徳分教会では7月24日午前11時より、六代会長・相原貞子之霊の一年祭が大教会長を祭主として同分教会で行われた。

お詫びと訂正

8月号4頁掲載の「6月の初席者」において、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

(誤) 本岐愛

↓(正) 本愛岐

広報部

信仰の喜びを実感しよう!

第976期 修養科生大募集

[集合・面接]日時: 9月25日午後1時/場所: 本愛詰所

※9月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和4年7月25日~令和4年8月24日

7月

26日 本部月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

8月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・桑子保、山神茂彦

指図方・大倉八郎 賛者・山本正太郎、野田正樹

◇祭典講話—桑子保

2日 よふき会例会

8~12日 学生生徒修養会・高校の部

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・中島功雄、加藤成幸

指図方・安藤正二郎 賛者・大池美公雄、久保眞樹

◇祭典講話—龍陽分教会ようぼく・渡辺道治先生

◇大教会長挨拶

青年会例会

14日 布教実修所

女子青年例会

16日 むつみ会例会

17日 こども食堂MOGU (参加者50名)

21日 ほんあいOKEIKO (参加者6名)

20日 婦人会例会

24日 こはる会例会